

シラバス（授業計画）

学科名	動物管理科					コース名	キャットプロコース	
科目名	愛玩動物飼養管理論					必修・選択必修の別		必修
実施期	1年	前期	28 時間	後期	26 時間	授業時間数合計		54 時間
	2年	前期	- 時間	後期	- 時間	※授業50分を1時間とする。		
担当講師	滝口 準一							
	実務経験	有	大手ペットフード会社で40年以上勤務。年間4000件以上のペットに関する相談の対応。現在もペットフードに関する協会で活躍中。					
授業概要	1.ペットトリマーとして動物愛護と適正飼養に関する専門的指導員の養成を目的にこれに答えられる 精神、知識、技術を身につけるための知識を習得するものです。					授業形式	講義	
到達目標	愛玩動物を中心に、動物に対して正しい飼養管理の知識を深め、愛護、終生飼養やトラブル防止、不妊処置の啓発、共通感染症などの知識、社会的マナーの修得を図る等、将来ドッグトレーナーとして自信と誇りと楽しみを以て、飼い主始め、社会に指導貢献出来る為の基礎を築く。							
教科書・教材・服装等	・愛玩動物飼養管理要約ノート ・愛玩動物飼養管理テキスト 第1・2巻 ・復習テキスト							
授業計画時間数	授業内容							
1~4	Ⅰ 愛玩動物飼養管理士を通して、動物の適正飼養について理解する:1.公益社団法人日本愛玩動物協会の目的・事業等 2.愛玩動物飼養管理士について 3.ボランティア活動の捉え方 Ⅱ 人と動物の関係:1.人と動物のかかわり①ペットを取り巻く現代事情②③④動物虐待⑤飼い主と社会の関係について							
5~6	Ⅱ 人と動物の関係:2.動物観・ペットとのかかわりの歴史①「動物観」について②日本の動物観③海外の動物観④日本人とペット 3.多様な動物愛護思想とその歴史:動物愛護運動①イギリスに始まる②アメリカ③日本 4.多様な動物愛護思想とその歴史について①広井辰太郎と動物虐待防止会②新渡戸万里と日本人道会③動物愛護思想の啓発と動物文芸④第二次世界大戦後の動物愛護運動							
7~8	Ⅱ 人と動物の関係:5.多様な動物愛護思想とその歴史①実験動物と産業動物の取り扱いの適正化②多様化する動物倫理について③共生という考え方 6.利用目的により異なるかかわり方①「動物」とは何か②対象によって異なるかかわり方③飼育動物の現状と課題について④野生動物の現状と課題について 7.動物とのふれあいとその効果							
9~10	Ⅱ 人と動物の関係:8.動物愛護の今後の展望について Ⅲ 動物関係法令Ⅰについて:1.動物と法律①法律とは②動物関係法令の概要を学び理解する 2.動物の愛護及び管理に関する法律について①動物愛護保管法の概要を知る②基本原則と飼い主の責任について③動物の飼養及び保管に関する基準とは④動物取扱業=第一種動物取扱業とは							
11~12	Ⅲ 動物関係法令Ⅰについて:2.動物の愛護及び管理に関する法律⑤動物取扱業=第二種動物取扱業とは⑥虐待と罰則⑦特定動物とは⑧動物愛護週間と普及啓発について⑨ 動物愛護推進員と動物愛護推進協議会について⑩犬や猫の引取りと負傷動物の収容について⑪周辺の生活環境の保全について学ぶ 3.飼育動物と関係法令について学ぶ①狂犬病予防法について②身体障害者補助犬法とは③愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律について(ペットフード安全法)							
13~14	Ⅲ 動物関係法令Ⅰについて:4.野生動物と関係法令について①野生動植物に関する法体系②鳥獣の保護並びに狩猟の適正化に関する法律について IV ペット業界の現状と広がりについて:1.ペット業界の歴史 2.ペット業界の現状とこれからの課題①ペットの飼育頭数と市場規模②ペットにかかる費用は③分野別の傾向を見てみましょう V 動物の体の仕組みと働き:1.体の基							
15~16	V 動物の体の仕組みと働き:2. 栄養を取り入れる 3.酸素を取り入れる 4.老廃物の排出、異物の撃退と解毒 5.情報を取り入れる 6.体内情報伝達 7.子供を産み育てる							

17~18	VI動物の飼養管理: 1.動物の飼養管理①動物の飼養管理②動物の正しい関わり合い方③動物の健康増進と疾病予防について④環境衛生⑤管理衛生⑥動物の飼養に伴う公衆衛生・社会生活上の問題⑦ペットのケガや事故への対応⑧ペット保険とは⑨災害に備える				
19~20	VI動物の飼養管理: 1.動物の飼養管理⑩血統書 2.動物取扱業①その使命②飼養管理上のポイント 3.動物の繁殖①動物の遺伝②犬の繁殖生理③猫の繁殖生理について VII動物の飼養管理論: 1.犬の飼養管理①犬はどんな動物か				
21~22	VII動物の飼養管理論: 1.犬の飼養管理②犬と暮らす③犬の健康管理について 2.猫の健康管理①猫はどんな動物か②猫と暮らす③猫の健康管理について 3.その他の哺乳類の飼育管理				
23~24	VII動物の飼養管理論: 4.鳥類の飼養管理 5.爬虫類の飼養管理				
25~26	VII動物の飼養管理論: 6.動物の栄養と食事①動物に必要な栄養素②3大栄養素と必要性③④ペットフード⑤食事 7.高齢動物の取扱について①高齢期のはじまり②犬③猫④ウサギ				
27~28	・(前期末定期試験対策・第一巻Ⅰ～Ⅴまでの復習解説)				
29~32	VII動物の飼養管理論: 7.高齢動物の取扱について⑤鳥⑥カメ⑦終末期のケアと介護 8.動物の保定法について①～④その他の哺乳類の保定 VIII動物のしつけ: 1.学習理論①～④刷り込み				
33~36	VIII動物のしつけ: 2.犬と猫の社会化①社会化とは②犬の社会化③猫の社会化 3.犬のしつけの基本①犬のしつけとは何②犬の基本的なしつけ方 4.室内飼育猫のしつけの基本①②③室内生活のすすめ				
37~40	Ⅰ～Ⅷまでの総まとめ				
41~44	01肝臓疾患の栄養管理・02消化器疾患と栄養について・03慢性腎臓病の病態と食事療法				
45~48	04腸炎について・05慢性心臓病の食事について・06尿石症の食事について				
49~54	07がんに対する栄養学的アプローチについて・後期学習内容の復習(後期定期試験解説)・愛玩動物飼養管理論総復習				
成績評価方法	・出席率		定期試験	○	筆記試験
	・定期試験や小テスト				実技試験
	・平常点(提出物・授業参加意欲など)				実施しない
成績評価基準	A評価	出席率90%以上・定期試験や小テスト90点以上・平常点 優れている			
	B評価	出席率80%以上・定期試験や小テスト80点以上・平常点 普通			
	C評価	出席率80%以上・定期試験や小テスト60点以上・平常点 やや劣る			
	F評価	C評価の基準を満たしていない場合			